

事例3

安田 典夫 さん
(仮称・63歳)
のケース

「障害と向き合い協力しながら 生活していくために…」

現在の生活

安田典夫さん（仮称・63歳）は、妻の智美さん（仮称・60歳）と長男と嫁・孫・実母・実弟の7人で暮らしています。

典夫さんは今年、脳出血を発症し左上下肢に麻痺があり、障害1種1級・介護保険制度の要介護4と認定され、家族とともに生活しています。

デイサービスを週2回利用しており、入浴サービスを受けているばかりでなく、本人も楽しみにしていることから、閉じこもり防止や社会的交流関係を持つ良い機会になっているようです。

現在は、妻の智美さんを中心として介護をしていますが、家族全員が「自分でできることはしなくては！」と考え、多くを手助けしない方針で、家族の最低限の見守りのみの状況です。

ただし、若くして発症したためか、病気・麻痺について受入れがたい状況があるようで、典夫さんの家族に対する依存度が強く、思うようにすぐに動いてくれないと興奮するため、家族の精神的負担もありますが、その一方で、智美さんも持病があり、無理はしたくないと感じる部分が強いです。

介護の協力者（嫁・実弟）はいますが、お嫁さんに対しては頼みづらい部分があるためか、ほぼ妻の智美さんの負担に繋がっているようで、介護に対して、本人の意向と家族の意向にズレが生じているようです。

現在の介護状況

典夫さんは日中トイレへ行く以外は動こうとせず、家族がリハビリのため部屋を歩くよう促せば歩くようですが自発的なものはないようです。

また、実母が同じデイサービスに通所しており全介助であるために、それを見て典夫さん自身も全て介護してもらえるものだと思込んでいる状況があるようです。

家族の希望としては、「これから農繁期になり忙しくなるため、なるべく自分の事は自分でできるようになって欲しい。」「デイサービスの利用を増やしたい」との希望がありますが、その考えに対して典夫さんは消極的で、離床時間・活動時間の確保をしたいとの希望があり、本人の意向と家族の意向に相違する部分があります。

また、典夫さんは車の運転がしたいと話していることから、農繁期になり、一人で家で過ごす時間が増えた時に、1人で車に乗る可能性があることから、その点においても家族の心配は大きいようです。

—現在の問題と課題と支援のポイント—

1 片麻痺に加え、左半側無視か左の視野狭窄を合併している可能性があります。

ポイント：家族も含め障害がきちんと把握されているかが不明です。そのため障害の程度を明確にする必要があります。本人や家族の理解度や精神状態に即して、障害の程度を理解をすすめることで、介護への理解や本人の不安も解消されることがありますし、そうすることで介護に対する本人と家族の意向のズレが解消される場合もあります。

2 退院して間もないため、身体的にも精神的にも自宅での生活に慣れていない可能性があります。

ポイント：本人が障害の程度を理解し、それに合わせて、無理なく慣れていけるよう、日常生活の過ごし方を工夫していく必要があります。また、家族も障害を理解し介護方法を工夫するなどして、無理なく自宅での生活に慣れていけるように工夫していく必要があります。

3 心身機能が低下する可能性があります。

ポイント：退院して間もないことや、自宅での生活に慣れていないため、また、障害と向き合うことに対しても、精神的な負担や疲労度も高く、活動力が低下することも考えられます。機能の維持が図れるよう、デイサービスでの関わり方や自宅での暮らし方を検討し、家族でサポートしていくことが必要です。

4 転倒する危険性があります。

ポイント：左半側無視か左の視野狭窄を合併している可能性があるため、転倒の危険性は極めて高い状況だと考えられます。転倒の原因を明確にして、障害により転倒の危険が避けられないのなら、家族がサポートし介護することが必要ですし、住宅改修を検討するなど、暮らし方の工夫をすることも必要です。本人もしきりに転倒について訴えているようでしたら、介護する側で大丈夫と判断せずその原因を明確にして下さい。

5 本人の依存心の原因が不明。

ポイント：本人の精神的な問題だけか、やむを得ない状況かを明確にする必要があります。その上で、転倒の危険があり不安を抱えているため依存せざるを得ない等の状況であるなら、本人の意向を無視せず、環境整備や介護の工夫により安心できる状態にすることを検討していく必要があります。

6 妻の介護負担の軽減

ポイント：妻が特に負担となっている介護を明確にし、利用できるサービスについても検討し対応していくことも必要です。

7 杖の握り方について

ポイント：在宅生活復帰に伴い非常に緊張している様子で、手すりを握るような握力で杖を握っている様子が伺えます。時間が経過すれば問題ないと思いますが、腱鞘炎に注意しながら、改善が見られないようであれば、杖の変更等も検討して下さい。



今後の支援のポイントについて

デイサービスや通院リハビリの利用により、上手に機能維持ができていられると思われます。これから農繁期になり日中一人であることが増えるようですが、一人で日中を過ごすことが多くなると、どうしても動くことが少なくなり、機能低下や肥満が気になります。現在は良い状態で維持されているようですので、この状態を継続していただきたいとも考えますし、デイサービス等の利用を増やすことも検討することが望ましいでしょう。

本人の希望している車の運転に関しては、左側無視（本人には左側を見落としやすいと説明すると良いでしょう）があるので、事故を起こす危険があるので、止めるようにきちんとお話する必要があります。これは家族皆で何度も言う必要があると考えますし、事故がおきたら家にいれなくなるということも付け加えて、現状を本人に十分理解してもらおうようお話することが望ましいと考えます。

基本的には膝痛の悪化や非麻痺側の腱鞘炎の出現、転倒によるケガなどがおきないように注意しながら、現在の状況を維持していけると良いと考えます。